

# 廃材を利用した工作教材の提案

—児童発達支援センターでの実践を手がかりとして—

Teaching Craft Using Scrap Materials:  
Insights Gained from Practice at a Child Development Support Center

尾崎 公彦\*1

## 要 旨

図画工作科の学びは、一人一人の想像的解釈で行われるため唯一の正解はない。その学びは生きる力の基盤を作るものである。図画工作科は表現や鑑賞を通じ豊かな情操を陶冶すると同時に、児童たちが自己肯定感や達成感を得られる活動でもある。その実現のためには、一人一人が主体的に取り組める環境が必要になる。教え方も一人一人の発達や経験を考慮し個々の児童にどの程度関わるべきか、どの程度指示をするのか、どれだけ手助けするのか、どこに焦点を当てるのか、など個別対応が基本となる。自閉スペクトラム症児を含む支援が必要な児童は、その障害の特性から、理解ある人的環境の中で合理的支援を基に、公正な教育を受ける必要がある。本稿では、筆者の実践例を基に TEACCH の構造化の視点を取り入れ、小学校第 1 学年及び第 2 学年対象に、図画工作科におけるインクルーシブ教育においてどの児童も楽しく取り組める教材の一例を示し、指導法を提案したい。

Keywords : 図画工作教材, TEACCH, 制作, 支援, ICT

drawing and manual art teaching materials, TEACCH, creation, support, ICT

## 1. はじめに

新しい小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 31 日告示）解説図画工作編<sup>1)</sup>においては、図画工作科で育成を目指す資質・能力は、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力など」、「学びに向かう力・人間性など」の三つの柱を軸として具体的に設定された（p.3）。そして特別な配慮を必要とする児童への指導として、総則に、「障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。」（p.137）と記載されている。さらに図画工作科学習指導要領第 4 章指導計画の作成と内容の取り扱い（8）に、「障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。」（p.110）とされている。あらゆる児童が公正な教育環境のもとで十分な学びができる支援が求められている。自閉スペクトラム症児は、その障害の特性から、理解ある人的環境の中で公正な指導教育を受ける必要がある。図画工作科においては、支援が必要な児童を含む全員の児童が、日常的に無意識に気を使い生活している状態から解放され、伸び伸びと表現に取り組める環境を第一に整備する必要があると考

---

\*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 子ども医療福祉学科

える。佐藤と中井（2008）が指摘しているように、図画工作・美術の授業は、言葉とは違う自己表現の場にもなり得る。佐藤と中井は、その自己表現の場を保障できるように、教師は様々な面で支援することが重要である<sup>2)</sup>と指摘する。支援が必要な自閉スペクトラム症児を含む全ての児童を対象とした図画工作科の学習において、指導上必要な支援すべきことを明らかにすることは、全ての児童とその家族、指導する教師にとっても有益である。そこで本稿では、筆者の実践した事例を基に小学校第1学年及び第2学年のあらゆる児童を対象に、Treatment and Education of Autistic and related Communication-handicapped Children（以下、TEACCH と記す）の構造化の視点を取り入れた学習過程における支援事項について明らかにし、楽しく取り組める教材の一例を示し、指導法を提案したい。

## 2. 方法

筆者が実践している児童発達支援センターでのアート活動の事例を基に、活動内容を検討する。その後、TEACCHの構造化の視点を取り入れ、小学校第1学年及び第2学年を対象とし、図画工作科の学習過程において、主体的に楽しく伸び伸びと活動できるように必要な指導上支援すべきことを抽出する。

### 2.1 児童発達支援センターでの活動

筆者は児童発達支援センターで月に1回一時間アート活動をおこなっている。施設からの要望は、(1) 季節に応じた活動させたい、(2) 幼稚園や保育園でやっていることは経験させたい、であった。それを基に年次更新しながら年計画を立て（図1）、造形あそびを活用し、パス類の扱い方や絵具・筆の扱い方について継続的に行い習得できるようにしている。後半からは、描く・切る・貼るなどを総合的に行える工作の内容を設定している。

2023 アート活動計画書 えがく つくる						
季節に応じた活動をさせたい。違う視点を学びたい。作品は展示したい。ボディペインティング、フィンガーペインティング、泥遊び、泡あそび、片栗粉粘土経験あり。幼稚園・保育園でやっていることは経験させたい。						
* 活動を通じて(遊びの要素を入れた)、自分で考え、自分で判断できるような経験をする。						
AM9:45~10:45	4月	5月	6月	7月	8月	9月
年少・年中混合2クラスA・B	お花紙であそぼう!	はじき絵を楽しもう!	はじき絵を楽しもう!	不思議な魚 絵の具をやシールなど使用して描いてみよう!	えがいてあそぼう!	えがいてあそぼう!
	アイズブレイク。大量のお花がみを用いて遊ぶ。色に溢れた非日常空間を楽しみ、そこから遊びを展開させる。	クレパスで描くを行い、6月に水彩絵の具を塗ってはじき絵を楽しむ。	三原色を使用してはじき絵を楽しむ。絵の具に親しみ、筆の使い方を楽しみながら行う。	魚の形に切った紙からおイメージを膨らませ、見たこともない不思議な魚を作ってみよう! 楽しみながら、筆を使用して描く事絵も楽しむ!	ボディペインティングで描くことを楽しもう! 描いた模様を転写版画で写し取ります。	「さまざまな形にちぎった紙」を使用して、イメージを膨らませて色んな線を描いてみよう!
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	えがいてあそぼう!	はんこあそび!	えがいてあそぼう!	つくってあそぼう!	つくってあそぼう!	つくってあそぼう!
	「さまざまな形に切った紙」を使用して、イメージを膨らませて色んな線を描いてみよう!	身近なものを使用してはんこあそびをしてみよう!	パステルを使用し、線描きや面描き、ほかしなど描画材が持つ特性を楽しむ。	「自分を讃えるトロフィーを作ろう!」紙筒を使用して、様々な材料からイメージを膨らませて小学校に入る気持ちを表現してみよう!	紙皿・紙コップを使用して、工作してみよう!	「夢ラーメンをつくる!」紙の井を用意し、様々な材料からイメージを膨らませて、世界に一つだけのラーメンを作ろう!

図1 アート活動計画書

## 2.2 実践1「廃材を使用したトロフィーづくり」

アート活動時は、子ども一人一人が主体的に、自由に伸び伸びと取り組めるように危険が想定されること以外は、否定的な言葉は使用しない、子どものやりたいことを最大限支援することを厳守している。人員は、障害児2名に対して職員1名を配置し、材料についても自分で選択できるよう環境構成を行なっている。

「廃材を使用したトロフィーづくり」のアート活動は、1年間の集大成の活動で、描く・切る・貼る、といった工作活動を総合的に行う内容としている。活動の導入として、この1年間の頑張りを振り返り、自分を讃えるトロフィー作りをする旨の説明を口頭で行い、具体的な制作例を提示した(写真1)。また、本題材は小学校学習指導要領(平成29年3月31日告示)解説図画工作編<sup>1)</sup>の図画工作科小学校学習指導要領の第1学年及び第2学年の目標(2)「造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想したり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。」(p.36)に基づいている。また、内容の「A表現」(1)イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。」(p.38)や「A表現」(2)イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。」(p.43)。「[共通事項](1)ア「自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。」(p.53)。(1)イ「形や色などを基に、自分のイメージを持つこと。」(p.53)に重点をおいている。

対 象：支援が必要な就学前の幼児(3歳児から5歳児)。

内 容：4名から5名の異年齢グループ単位で1年間の活動の集大成の内容として「自分を讃えるトロフィー作り」を行った。

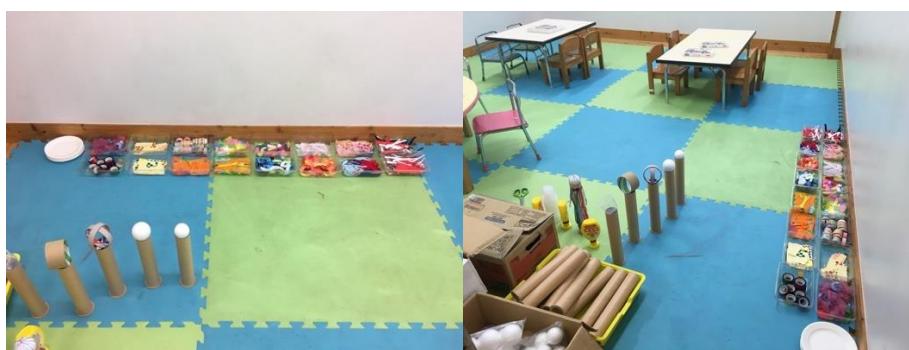
ねらい：材料から形や色のイメージを展開させ、切る・貼る・描く活動を通じて、工夫して作る楽しさを味わい、豊かな情操を育む。

環境的支援項目として以下の4点を行った。

- (1) 何をどう作るのかについては、部屋に入ったら視覚的に理解できるように材料や参考作品を配置。
- (2) 飾りの材料は、自ら選択できる様に配慮し、種類別に容器に入れて配置し、自由に取れるように配置した(写真2)。描くことが苦手な子どものためにシールやテープも用意。
- (3) トロフィーの基本形5例を示し(写真3)、各自で選択できるようにした。
- (4) 制作を行う机には、紙皿、木工用ボンド、水性フェルトペンを置いている(写真4)。部屋に入った幼児たちは、説明も聞かずとも、活動に入って行けるように配慮した。



筆者制作作品例（写真1）



材料（写真2）

基本形5例（写真3）



机上（写真4）

### 2.3 活動内容

活動時間は、平均して一人30分。長い幼児で50分。興味関心があれば、集中して取り組む事ができる姿があった。アート活動の担当として、一人一人の障害の程度を十分把握している訳ではない。制作時の姿や制作内容から、見守るのか、言葉掛けをするのか、新たな材料を提示するなど、一人一人の思いや状況に応じて、対応を行なっている。日常的に接している施設の保育者は、一人一人の障がいの特性に応じて、事故を未然に防ぐため、時には幼

児の行動を制御する事もあったが、アートの担当者としては、やりたいようにやらせることを基本とした。その結果、普段の施設内での活動では見ることのできなかつた長時間集中する姿や、描けないと思われていた人の顔を描くことができ、表情豊かに活動に取り組む姿が見ることができた。日常的に接している担当職員も新たな子ども達の認識を得ることができた。

制作過程においては、今までに経験した活動から得られた知識や技能を駆使し、自分なりに工夫し表現する姿が見られた。その制作過程には、作り出す喜びを話味わうと共に、造形的な視点について、自分の感覚や行為を通じて創意工夫して取り組む姿や、粘り強く取り組む姿を見る事が確認できた。

## 2.4 制作結果

ここに示す作品は、自閉スペクトラム症の年長女児の作品である。彼女は「自分を讃えるトロフィー」から自らの感性や想像力を働かせ、紙筒と発泡スチロール球との組み合わせの形からイメージを展開させ、造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら、新たな意味や価値を作り出すことに成功した。最初は紙筒と発泡スチロール球との組み合わせの形であったが、紙皿を加えることにより、造形的展開が起こり、形や色の表現が豊かなものへ展開していった(写真5)。感じたことや想像したことを持ち、材料(紙皿)からより一層、誘発されて表したいことを見つける姿があった。年長女児の作品は、好きな形や色で構成され、伸び伸びとした表現になった。自らが紙皿を選択し、紙筒との組み合わせの面白さに気づき、最後まで諦めないでイメージを形にするために一生懸命に取り組んでいた。



制作過程から完成まで(写真5)





### その他の作品例（写真6）

描く事が苦手な幼児のために、シールやテープも用意している。各自材料からイメージを展開し、自分なりの表現の仕方でもトロフィーを作ることができた。自らがイメージした内容を、材料を通じて、形や色などの造形的な視点を獲得し、一人一人の思いがこもったトロフィー作りを行うことができた（写真6）。

### 2.5 問題点

現在の小学校のークラス 35 名のインクルーシブな学習環境の中で、第 1 学年及び第 2 学年の自閉スペクトラム症児を含む、全ての児童が今回のような活動を円滑に行うためには、支援が必要である。事例のような就学前に一人一人の特性に合った療育を受ける環境にある子どもたちは、個別対応、少数指導の環境の中で制作活動に取り組むことができる。細川ら（2017）が図画工作科・美術科においては、各児童生徒が持つ興味関心、発想や構想、技能の多様性を前提に出発するため、教師の指導も個別対応が多くなり、場面によっては一方向の指導よりも、支援に近い関わり方になる<sup>3)</sup>と指摘していることから、インクルーシブ教育を実践する為には、従来の教室運営では限界が来ているのではないかと考えられる。自閉スペクトラム症児を含む全ての児童が円滑に図画工作科の授業を受け、授業の目的や内容を達成する為には、こうした個別対応や少数対応の学習環境の整備が重要だと考えられる。

しかし、小学校で人的環境を整備し、個別対応ができるよう配慮したとしても、教師及び配置された支援員には、一人一人の児童生徒の制作活動を見極め、どの程度関わるべきか、どの程度指示をするのか、どれだけ手助けするのか、どこに焦点を当てるのか、など個別対応ができる教師の能力や、図画工作科の専門的知識や実践力が求められる。自閉スペクトラム症児に対しての支援についても、本人や家族を交えて合理的配慮について共通理解を持つことが求められる。次節では、こうした人的環境が整ったと想定し、小学校第 1 学年及び第 2 学年の自閉スペクトラム症児を含む全ての児童について、楽しく取り組めるように、制作過程における支援事項について考察を試みる。

### 3.1 TEACCH の構造化の視点からの支援事項

小学校学習指導要領に示されている通り、小学校第 1 年及び第 2 学年の図画工作は、遊びの要素を取り入れながら、楽しく学ぶことが望ましい。「廃材を使用したトロフィーづくり」を小学校第 1 年及び第 2 学年で実践すると仮定し、その際に公正な学習環境を提供するために必要な支援事項を TEACCH の視点から考察を試みる。本教材は、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 31 日告示）解説図画工作編<sup>1)</sup>の図画工作科の第 1 学年及び第 2 学年小学校学習指導要領図画工作科の目標及び絵や立体、工作に表す活動に基づいた活動である。特に図画工作科小学校学習指導要領の第 1 学年及び第 2 学年の目標 (2)「造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想したり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。」(p.35) に基づいている。また、内容の「A 表現」(1) イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。」(p.38) や「A 表現」(2) イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。」(p.43) と【共通事項】(1) ア「自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。」(1) イ「形や色などを基に、自分のイメージを持つこと。」(p.53) に重点をおいている。

#### 目標 (p.35)

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分お感覚や行為を通じて気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせて材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的に作ったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想したり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようになる。
- (3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、作り出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。

#### 絵や立体、工作に表す活動で指導する事項 (p. 23)

- |        |      |   |
|--------|------|---|
| 「A 表現」 | (1)イ | 絵や立体、工作に表す活動を通じて育成する「思考力、判断力、表現力等」      |
|        | (2)イ | 絵や立体、工作に表す活動を通じて育成する「技能」                |
| 「B 鑑賞」 | (1)ア | 鑑賞する活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」            |
| 【共通事項】 | (1)ア | 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通じて育成する「知識」           |
|        | イ    | 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通じて育成する「思考力、判断力、表現力等」 |

この教材では、具体的にトロフィーを作っていくためには、

- ① 与えられた題材・材料からのイメージの展開
- ② 何をどのように使って表現するか
- ③ どのように自分のイメージを材料の組み合わせで表現していくか

制作を楽しみながらその過程を通じて、図画工作科で育成を目指す「知識及び技能」・「思考力・判断力・表現力等」・「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力が育まれる。こうした資質・能力も適切な学習環境を整備し，全ての児童が共に公正な教育を受けられるように支援しなければ，獲得することができない。TEACCH の構造化の視点から，自閉スペクトラム症児には，以下の支援事項について留意し取り組むところが求められる。なぜならば，自閉スペクトラム症児は，耳で聴いて理解することが困難なので，視覚的情報を使用し，明示的学習の強みを活かして，見通しを持って取り組みに臨むことが望ましく，活動内容を可視化して提示することで安心して学習に取り組むことができるからである。こうした制作過程を可視化することや，材料の種類別配置や他の児童の制作過程を自然に見ることができる環境構成を行うことは，すべての児童にとっても有益な教育環境を提供することになる。

#### 支援事項

- ① 明示的学習 制作過程の可視化
- ② 視覚的情報 材料の種類別に配置
- ③ 環境的配慮 他の児童との関わりを作るため，材料や用具を取りに行く動線の工夫

### 3.2 授業計画から支援事項の実践

自閉スペクトラム症児の学習スタイルの強みである明示的学習や視覚的情報，細部への注意，限定的な興味を基に授業計画から求められる支援事項について考察する。

「廃材を使用したトロフィーづくり」の授業計画は（表1）のとおりである。導入においては，紙筒からのイメージ展開の理解ができるように，何をどのように利用し，何を作るのかを，制作過程を板書（文章）とイラストやICTを活用した映像で示し，見通しを持って活動できるように支援する。また，篠木（2003）<sup>4)</sup>は，どの指示が児童に受け入れられるかは，児童の性格や好み，障害の状況やその日の体調などによって臨機応変に変えていく必要がある（p.24）と指摘している通り，イラストやICTを活用した映像だけで環境が整ったとは言いきれず，教師は一人一人の状況をよく観察し，「困ったこと」を理解し，その解消に向けて最大限の支援を行う必要がある。

制作においては，自閉スペクトラム症児の学習スタイルの強みである，明示的学習を応用し，制作過程を可視化して示す。材料についても，種類別に容器に入れ配置する。材料までの動線についても，他の児童の作品や制作過程を自然に見ることができるように環境構成を行う。材料の切る・折る・曲げるなどの加工の仕方についても，参考例を示し，見て触って理解を深めるようにする。主体的かつ創造的に作ることができるように支援する必要がある。篠木（2003）<sup>4)</sup>は，制作過程を細かく細分化し，一つ一つ積み重ねることで作品を完



成させている。学習内容の理解に困難を示す児童には効果的な指導法であると考えられる (p.25) と指摘している。児童を観察し、状況に応じて、制作過程を細分化して、学習内容の理解を促し、主体的に取り組めるような言葉掛けや、意欲を持って取り組める支援が必要である。全ての児童が一人一人作り出す喜びをあげ、身近な材料を自らのやり方で加工し、進んで形や色と関わりトロフィーを完成させることが大切である。

鑑賞においては、自分の作品と友達の作品を比較したり、その美しさや良さを感じ取ったり考えたりして、自分のものの見方や感じ方を深める良い機会となる。こうしたことを十分に味わえるように、自然に友達の作品を目に入るように机の配置や作品保管場所などの環境構成を行うことも大切である。また付箋紙を渡し、友達の作品を観て感じたことや考えたことを書き出し言葉で伝えることも大切である。児童らは自分の表現はこれで良いのか不安を感じているが、他者に共感され受容されることで自分の表現は不安から確信に変わり、次への意欲を生み出す。自閉スペクトラム症児の鑑賞への支援は、一人一人の特性を見極め求められる支援が必要であろう。鑑賞への支援は今後の課題である。

**表 1 授業計画 (6 時間) 廃材を使用したトロフィーづくり!**

	主な学習活動	指導内容	配慮事項
導入 (45分)	<b>廃材を使用したトロフィーづくり!</b> 題材と材料から、発想や構想する一本の紙筒に、描いたり身近な素材の組み合わせ方を試したり、見つけたりする。	・参考作品の提示 <b>ICT の活用</b> ・使用できる材料・用具の説明 <b>ICT の活用</b>	基本形態を選択するもしくは新たな基本形態を作る。 <b>明示的学習の強みを応用し、参考作品・制作手順を可視化、材料は種類別に配置。必要に応じて一人一人に合わせて提供。</b>
制作 1 (90分)	<b>作ってみよう!</b> トロフィーからイメージしたことを基に紙筒どのように表すかを考える。	・材料の加工の仕方の工夫。形や色などの感じ方を基に、表したいことを見つけたり考えたりする。	<b>制作手順の可視化 1</b> 加工について視覚的情報による材料の実践例を提示。様々な材料を使用した参考作品を提示。 用具の扱い方・保管の仕方の可視化。
制作 2 (90分)	<b>作ってみよう!</b>	・材料からイメージを展開。材料や用具を適切に扱い、一人	<b>制作手順の可視化 2</b> 材料の扱い方の提示。制作過程を必要

	材料からもイメージを展開させ、 創意工夫して創造的に表現を試みる	一人の表したいことに合わせて表し方の工夫を指導.	に応じて一人一人に合わせて段階毎に提示.
鑑賞 (45分)	鑑賞会 完成作品を相互鑑賞. 題材の制作意図を文章で表す.	作り出す喜びを味わい、友達作品から良さや美しさを感じとり、考え、自分の見方や感じ方を深めることの大切さを指導.	完成作品を文章で表すための教材を用意. 見るだけではなく触ったり持ち上げたりし、触って感じ取ったり考えたりすることの重要性を可視化し伝える配慮を行う.

#### 4. 考察

本研究では筆者の実践した活動を基に検証し、TEACCHの構造化の視点を取り入れ、制作過程における支援事項について明らかにし、どの児童も楽しく取り組める教材の一例を示し、指導法を提案してきた。その結果、図画工作科においては、必要に応じて一人一人に合わせて制作過程を段階的に可視化することや、材料・用具の種類別に分類して配置することや、材料・用具や途中作品を置く場所の環境構成など、どの児童にも有益な支援が確認できた。また図画工作科の科目の特性から、一番に支援しなければいけない点は、書き方や算数の授業とは異なり、一人一人の想像的解釈で行われるため唯一の正解はないということを教師が理解しているということである。図画工作科の授業成果は、全員が違うものを制作することにあるとも言える。制作過程において全ての児童が主体的に取り組むためには、過度な支援は、想像的解釈の妨げになるとも考えられる。自由に伸び伸びと取り組める環境を担保し、その上で必要最低限の支援が求められるのではないだろうか。絵を描いたり工作をしたり、造形遊びを通じて、図画工作の資質・能力を支える力である造形的な見方・考え方の育成がされる。作品作りにおいて、感性や想像力を働かせているか。対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉えられているか。そして自分のイメージを持ちながら新たな意味や価値を作り出すことができているか。創造的な活動になっているのか。教師には、それを引き出す教育力が求められる。一人一人の児童生徒の制作活動を見極め、どの程度関わるべきか、どの程度指示をするのか、どれだけ手助けするのか、どこに焦点を当てるのか、など個別対応ができる教師の能力や、図画工作科の専門的知識や実践力が求められる。教師の教育力が教材をより魅力的な内容にする。

自閉スペクトラム症児に対しての支援についても、教師自身が自閉スペクトラム症について理解を深め、本人や家族を交えて合理的配慮について共通理解を持つことも求められるであろう。児童の好きな科目である図画工作科。その授業をあらゆる児童が心から楽し

め、図画工作科の目標を達成するためには、きめ細やかな配慮と支援が必要となる。そして何よりも大切なのは、図画工作科を担当する教師が図画工作を楽しみ、教育実践する資質能力が求められる。児童たちは、制作過程においてここに線をいれるべきか、ここに色を塗るべきか等多くの決断をし、これで良いのか不安を感じながら、制作を行なっている。完成した作品は、彼ら彼女たちの決断の結晶ともいえる。その決断が主体的に行われるように、悩みや決断に共感し、主体的かつ意欲的に制作に取り組める様に指導援助することが図画工作科に関わる教師の役割であり指導法の核になるものである。

## 5. まとめ

図画工作科の教材をより魅力的な内容し、すべての児童が一緒に取り組める授業にするために、関わる教師の支援は、以下の事が考えられる。

- ・児童一人一人の発達の状況を見極め、全体指導をしながら個別指導を行う。
- ・制作過程可視化。一人一人の必要に応じて、自閉スペクトラム症の児童には、制作過程を細分化し、主体的に取り組める様に支援を行う。
- ・児童一人一人が主体的・意欲的に取り組める環境構成と言葉掛けを行う。

創造的な活動は、そこに新たな意味や価値を感じられるかにかかっている。創造的活動を通じて、豊かな情操を養い図画工作科の目的を達成するためには、教師一人一人が、図画工作科を学ぶ意味を、国語や算数など主要科目と同じくらい理解しておく必要があることを強調しておきたい。

## 引用文献

- 1) 文部科学省，小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 図学工作編，四版，日本文教出版，大阪，2021
- 2) 佐藤史子，中井万理：広汎性発達障害児に関わる美術教師の支援，愛媛大学教育学部紀要，第 55 巻，121-128，2008
- 3) 細川かおり，樋口咲子，本多佐保美，小橋暁子，伊藤葉子，中山節子，木下 龍，辻 耕治，鈴木隆司，松尾七重：教科指導におけるインクルーシブ教育—実技教科の特徴を生かした指導の具体化—，千葉大学教育学部研究紀要，第 66 巻，第 1 号，181-190，2017
- 4) 篠木麻希：軽度心身障害児が困難を示す図画工作の学習内容と，それに対する指導の工夫，美術教育，2003 巻，286 号，21-26，2003

(2023 年 9 月 16 日 受理)